

あなたの留学はどんな物語に？ ードイツ留学体験記ー

こんにちは！人文学部人文学科の鈴木歩です。

私はトビタテ 16 期生として、2024 年 10 月から 2025 年 8 月まで、1 年間ドイツに留学をしていました。

～留学の理由・目的～

私のビジョンは、「ひとりひとりが自分の夢や目標を恥じることなく、胸を張って語れる日本社会をつくること」です。言い換えれば、「好きなことを好きと言える日本社会」を実現すること。そのためには「多様性」への理解が欠かせません。今回の留学では、ドイツ・ヨーロッパにおいて「難民・移民の受け入れを中心に、多様性とその葛藤について学ぶ」ということをテーマにしました。特に「葛藤」という部分に着目し、ボランティアや現地学生との交流を通して、多様な人々の「生の声」に触れることを目的としました。

～異国での日々～

ルール大学ボーフムで 1 年間交換留学生として学びました。留学中は日本の大学と同じように専攻分野の講義や、留学のテーマに関連する講義を受講していました。さらに実践活動として「ドイツ国際平和村」で、紛争地域などからケガや病気の治療のために来独した子どもたちの生活支援を行うボランティア活動に参加しました。他にも日本語学校のボランティアを行ったり、空き時間には街を散策したり、友人と遊んだり、趣味に没頭したり。日常の中での小さな冒険が、毎日を彩っていました。

～印象に残ったエピソード～

「今までに死を覚悟した経験ってある？」

これは、シリア出身のクラスメートと講義前に交わした何気ない会話の中で投げかけられた質問です。彼は、戦争で多くの死体を目にしてきたことや、銃を突き付けられた経験などを淡々と語ってくれました。その衝撃的な内容に、私は一瞬、言葉を失いました。

私の通っていた大学には難民・移民の背景を持つ学生が多く、ウクライナ出身の友人からも戦禍の体験を直接聞く機会がありました。ニュースを通してしか知り得なかった出来事を、本人の口から直接聞くことで、私は自分がいかに平和ボケしていたかを痛感しました。胸が締め付けられる思いとともに、国際社会の出来事を「自分事」として捉えることができたのです。

こうした会話を通して、深く感じたのは「人にはそれぞれの Story（物語）がある」ということです。その Storyこそが、その人の人格や価値観を形づくっているのだと実感しました。

～留学を通して学んだこと～

とにかく毎日が学びの連続でした。その社会に身を置いたからこそ見えてくる景色が、数多くありました。特に心に残っている学びは次の 3 点です。

1. 情報の力

留学中に国政選挙があり、右翼の台頭が大きな話題となりました。賛成派・反対派の友人双方の声を直接聞くことで、「私たちは世界の激動の中に生きている」という実感を得ました。また「情報」の重要性和危うさ、それが持つ巨大な力にも気づかされました。

2. 平和とは何か

みなさんの思う「平和」とは何ですか？

ドイツ国際平和村での活動では、「平和とは何か」について深く考えました。ケガや病気の治療のために親元を離れ、一時的に施設で共同生活を送る子どもたち。紛争や危機的状况によって足や腕を失った子、身体中に火傷を負った子など、多様な背景を持つ子どもたちが互いの言語を教え合いながら、笑顔で走り回っていました。そんな彼らの笑顔を守るために私ができることは何か。一人ひとりが安心して笑える時間と場所をつくることの大切さに、改めて気づかされました。

3. 尊重と気遣い

難民・移民の問題に直面するドイツに身を置き、実際に「生の声」に耳を傾けることで、「多様性」という言葉の裏に潜む「葛藤」を実感することができました。「多様性」とは何か、その言葉の曖昧さや危うさを改めて考えさせられました。多様性は一方的に押し付けて良いものではなく、そこにある「葛藤」を乗り越えるためには、互いの「気遣い」と「尊重」が不可欠であることを深く学びました。

～留学の醍醐味～

留学を終えた今、心から言えるのは「留学に行けて、本当によかった。」ということです。もちろんトラブルや大変なこともたくさんありましたが、それ以上に素晴らしい出会いとかけがえのない経験に恵まれました。現地の社会に身を置いたからこそ見えた景色は、私の人生に深く刻まれています。

私にとっての留学の醍醐味は、「出会いそのもの」でした。人が人を呼び、出会いが生まれ、機会が生まれ、経験につながる。ドイツの人々、そして世界各国から集まった人たちの交流は、今でも大切な思い出として目の奥に鮮明に焼き付いています。

～トビタテで広がった世界～

そして、この留学をさらに充実させてくれたのが「トビタテ！留学 Japan」の存在です。トビタテは、私の世界を一気に広げてくれました。

最大の収穫は、多様なビジョンを描く仲間との出会いです。2025年5月には、トビタテ生を中心に「守破離」という名のイベントを開催しました。これは、ヨーロッパ圏に留学する日本人留学生が来場者と共に、展示やパフォーマンス、会話などを通じて学びを共有し合

うイベントです。私はこのイベントに運営の1人として携わる機会もいただき、自分1人では成し遂げられなかった挑戦を、仲間と共に実現することができました。

「自分1人では不可能なことも、彼らとならできる。」—そう感じられる心強いネットワークを築けたことは、私にとって大きな財産です。

～これから留学を考えるあなたへ～

あなたの挑戦を応援してくれる人は、実は想像以上にたくさんいるんです。私自身、「母子家庭」「就活」「大学4年生」といった葛藤の中、家族や友人、教授、国際交流推進課の方々など、本当にたくさんの方々に私の小さな背中を押してもらいました。知らない世界に飛び込むことで、自分の世界を広げ、新しい自分自身を発見してみませんか？留学中の情報は、「新大『人プロ』ブログ（ボーfum便り）」でもご覧いただけます。

「The world is a book, and those who do not travel read only one page」

世界は1冊の本であり、旅をしない人はその本のたった1ページしか読まないのだ。

Saint Augustine

私にとって留学は“**出会いの物語**”でした。

あなたの留学は、どんな物語になるのでしょうか？



ドイツ国際平和村（写真提供：ドイツ国際平和村）



行きつけのカリーヴルスト屋さん



守破離イベント